

**年度 喀痰吸引等研修
(第一号研修・第二号研修) (不特定の者対象)**

実地研修

指導者評価票

受講者

受講 NO.	
勤務先施設名	
氏 名	

指導者

勤務先施設名	
氏 名	

取組項目	累積 実施回数	成功回数	成功率%	最後3回 連続成功	備考
口腔内喀痰吸引					
鼻腔内喀痰吸引					
気管カニューレ内部の 喀痰吸引					
胃ろう又は腸ろうによる 経管栄養					
経鼻経管栄養					

※ 本評価票を提出する際は、必ず、コピーを取り、保管しておいてください。

実地研修の実施について

1. 実施項目及び最低実施回数

実施項目	最低実施回数
口腔内の喀痰吸引	10回以上
鼻腔内の喀痰吸引	20回以上
気管カニューレ内部の喀痰吸引	20回以上
胃ろう又は腸ろうによる経管栄養 ※	20回以上
経鼻経管栄養	20回以上

※胃ろう又は腸ろうによる経管栄養での半固形の栄養剤の実施については、下記のとおり、通常手順として滴下型の経管栄養の実地研修を行った後、別途、実地研修等に取り組むことが求められています。実地研修については、必ず滴下型の手順で実施した結果を報告してください。

「半固形の栄養剤を実施する場合には、通常の講義・演習・実地研修に加え、別途、十分な講義・演習・実地研修を実施し、安全性の検討後行うことが必要である。」(平成23年11月21日厚生労働省事務連絡「喀痰吸引等業務の施行等に係るQ&A について(その2)」問C29回答)

2. 各項目の評価基準について

平成28年度実地研修評価票に、実地研修指導講師が研修受講者の実施結果について、各項目を「ア」「イ」「ウ」「エ」で評価していただき、すべての項目で「ア」となって1回成功となります。

(1) 実地研修評価判定基準

ア	1人で実施できる。 評価項目について手順通りに実施できている。
イ	1人で実施できる。 評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。 実施後に指導した。
ウ	1人で実施できる。 評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。 その場では見過ごせないレベルであり、その場で指導した。
エ	1人での実施を任せられるレベルにはない。

3. 実地研修の修了について

最低実施回数を行ったうえで、下記の2つの条件を両方満たした場合に、その項目の実地研修の修了を認めます。

① 累積7割以上の成功率であること。

累積7割以上の掲載方法については下記のとおりです。

$\{(成功回数) / (累積回数)\} \geq 0.7$ ※失敗した回数も全て累積回数に含めます。

② 終わり3回が連続で成功していること。

例えば、口腔内の喀痰吸引で9回目まですべて成功していても、最後の回で失敗した場合、その後、3回連続で成功する必要があります。

受講者氏名	指導者氏名
-------	-------

**喀痰吸引「実地研修」
口腔内吸引(通常手順) 指導者評価票**

※業務内容については、手引きの留意事項・考えられる主なリスクを参照のこと

評価	ア. 1人で実施できる。評価項目について手順通りに実施できている。
	イ. 評価項目について、手順を抜かしたり、間違えたりした。実施後に指導した。
	ウ. 評価項目について、手順を抜かしたり、間違えたりした。その場では見過ごせないレベルであり、その場で指導した。
	エ. 1人での実施を任せられるレベルにはない。

回数	例	()回目	()回目	()回目	()回目	()回目
月日	10/5	/	/	/	/	/
時間	14:00	:	:	:	:	:

実施手順	評価項目	評価判定						
準備	1 医師の指示等の確認を行う	ア						
	2 手洗いをを行う	ア						
	3 必要物品をそろえ、作動状況等を点検確認する	ア						
	4 必要物品を利用者(実地研修協力者)のもとに運ぶ	ア						
実施	5 利用者(実地研修協力者)に吸引の説明をする	ア						
	6 吸引の環境・利用者(実地研修協力者)の姿勢を整える	ア						
	7 口腔内・鼻腔内を観察する	ア						
	8 手袋の着用またはセッシを持つ	ア						
	吸引の実施	9 吸引チューブを清潔に取り出す	ア					
		10 吸引チューブを清潔に吸引器と連結管で連結する	ア					
		11 (浸漬法の場合) 吸引チューブ外側を清浄綿等で拭く	ア					
		12 吸引器のスイッチを入れて水を吸い決められた吸引圧になることを確認する	ア					
		13 吸引チューブの先端の水をよく切る	ア					
		14 利用者(実地研修協力者)に吸引開始について声かけを行う	ア					
		15 適切な吸引圧で適切な深さまで吸引チューブを挿入する	ア					
		16 適切な吸引時間で分泌物等の貯留物を吸引する	ア					
		17 吸引チューブを静かに抜く	ア					
		18 吸引チューブの外側を清浄綿等で拭く	ア					
	19 洗浄水を吸引し、吸引チューブ内側の汚れを落とす	ア						
	20 吸引器の電源を切る	ア						
	21 吸引チューブを連結管から外し保管容器に戻す	ア						
	22 手袋をはずす(手袋を使用している場合)またはセッシを戻す	ア						
	23 利用者(実地研修協力者)に吸引終了の声かけを行い、姿勢を整える	ア						
	24 吸引物及び利用者(実地研修協力者)の状態を観察する	ア						
25 利用者(実地研修協力者)の吸引前の状態と吸引後の状態変化を観察する	ア							
26 吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないかを観察する(経鼻経管栄養実施者のみ)	イ							
27 手洗いをする	ア							
報告	28 吸引物及び利用者(実地研修協力者)の状態を報告する	ア						
	29 吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないことを報告する(経鼻経管栄養実施者のみ)	ア						
	30 ヒヤリハット・アクシデントの報告をする(該当する場合のみ)	ア						
片付け	31 吸引びんの排液量が70%~80%になる前に排液を捨てる	ア						
	32 使用物品を速やかに後片付けまたは交換する	イ						
記録	33 実施記録を記載する	イ						
アの合計個数		30						

※自由記載欄：指導内容を具体的に記述してください。(手引きの留意事項・考えられる主なリスク等に記載されている細目レベルで記述)

()回目	
()回目	
()回目	
()回目	
()回目	

受講者氏名		指導者氏名	
-------	--	-------	--

**喀痰吸引「実地研修」
鼻腔内吸引(通常手順) 指導者評価票**

※業務内容については、手引きの留意事項・考えられる主なリスクを参照のこと

評価	ア. 1人で実施できる。評価項目について手順通りに実施できている。
	イ. 評価項目について、手順を抜かしたり、間違えたりした。実施後に指導した。
	ウ. 評価項目について、手順を抜かしたり、間違えたりした。その場では見過ごせないレベルであり、その場で指導した。
	エ. 1人での実施を任せられるレベルにはない。

回数	例	()回目	()回目	()回目	()回目	()回目
月日	10/5	/	/	/	/	/
時間	14:00	:	:	:	:	:

実施手順	評価項目	評価判定					
準備	1 医師の指示等の確認を行う	ア					
	2 手洗いをを行う	ア					
	3 必要物品をそろえ、作動状況等を点検確認する	ア					
	4 必要物品を利用者（実地研修協力者）のもとに運ぶ	ア					
実施	5 利用者（実地研修協力者）に吸引の説明をする	ア					
	6 吸引の環境・利用者（実地研修協力者）の姿勢を整える	ア					
	7 口腔内・鼻腔内を観察する	ア					
	8 手袋の着用またはセッシを持つ	ア					
	吸引の実施	9 吸引チューブを清潔に取り出す	ア				
		10 吸引チューブを清潔に吸引器と連結管で連結する	ア				
		11 （浸漬法の場合）吸引チューブ外側を清浄綿等で拭く	ア				
		12 吸引器のスイッチを入れて水を吸い決められた吸引圧になることを確認する	ア				
		13 吸引チューブの先端の水をよく切る	ア				
		14 利用者（実地研修協力者）に吸引開始について声かけを行う	ア				
		15 適切な吸引圧で適切な深さまで吸引チューブを挿入する	ア				
		16 適切な吸引時間で分泌物等の貯留物を吸引する	ア				
		17 吸引チューブを静かに抜く	ア				
		18 吸引チューブの外側を清浄綿等で拭く	ア				
	19 洗浄水を吸引し、吸引チューブ内側の汚れを落とす	ア					
	20 吸引器の電源を切る	ア					
	21 吸引チューブを連結管から外し保管容器に戻す	ア					
	22 手袋をはずす（手袋を使用している場合）またはセッシを戻す	ア					
	23 利用者（実地研修協力者）に吸引終了の声かけを行い、姿勢を整える	ア					
	24 吸引物及び利用者（実地研修協力者）の状態を観察する	ア					
	25 利用者（実地研修協力者）の吸引前の状態と吸引後の状態変化を観察する	ア					
	26 吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないかを観察する（経鼻経管栄養実施者のみ）	イ					
	27 手洗いをする	ア					
報告	28 吸引物及び利用者（実地研修協力者）の状態を報告する	ア					
	29 吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないことを報告する（経鼻経管栄養実施者のみ）	ア					
片付け	30 ヒヤリハット・アクシデントの報告をする（該当する場合のみ）	ア					
	31 吸引びんの排液量が70%～80%になる前に排液を捨てる	ア					
記録	32 使用物品を速やかに後片付けまたは交換する	イ					
	33 実施記録を記載する	イ					
アの合計個数		30					

※自由記載欄：指導内容を具体的に記述してください。（手引きの留意事項・考えられる主なリスク等に記載されている細目レベルで記述）

()回目	
()回目	
()回目	
()回目	
()回目	

受講者氏名	指導者氏名
-------	-------

**喀痰吸引「実地研修」
気管カニューレ内部吸引(通常手順) 指導者評価票**

※業務内容については、手引きの留意事項・考えられる主なリスクを参照のこと

評価	ア. 1人で実施できる。評価項目について手順通りに実施できている。
	イ. 評価項目について、手順を抜かしたり、間違えたりした。実施後に指導した。
	ウ. 評価項目について、手順を抜かしたり、間違えたりした。その場では見過ごせないレベルであり、その場で指導した。
	エ. 1人での実施を任せられるレベルにはない。

回数	例	()回目	()回目	()回目	()回目	()回目
月日	10/5	/	/	/	/	/
時間	14:00	:	:	:	:	:

実施手順	評価項目	評価判定						
準備	1 医師の指示等の確認を行う	ア						
	2 手洗いをを行う	ア						
	3 必要物品をそろえ、作動状況等を点検確認する	ア						
	4 必要物品を利用者(実地研修協力者)のもとに運ぶ	ア						
実施	5 利用者(実地研修協力者)に吸引の説明をする	ア						
	6 吸引の環境・利用者(実地研修協力者)の姿勢を整える	ア						
	7 気管カニューレ周囲や固定の状況を観察する	ア						
	8 手袋の着用またはセッシを持つ	ア						
	吸引の実施	9 吸引チューブを清潔に取り出す	ア					
		10 吸引チューブを清潔に吸引器と連結管で連結する	ア					
		11 (浸漬法の場合)吸引チューブ外側を清浄綿等で拭く	ア					
		12 吸引器の電源を入れて原則として滅菌精製水を吸い決められた吸引圧になることを確認する	ア					
		13 吸引チューブの先端の水をよく切る	ア					
		14 利用者(実地研修協力者)に吸引開始について声かけを行う	ア					
		15 適切な吸引圧で適切な深さまで吸引チューブを挿入する	ア					
		16 適切な吸引時間で気管カニューレ内の分泌物等の貯留物を吸引する	ア					
		17 吸引チューブを静かに抜く	ア					
		18 吸引チューブの外側を清浄綿等で拭く	ア					
	19 滅菌精製水を吸引し、吸引チューブ内側の汚れを落とす	ア						
	20 吸引器の電源を切る	ア						
	21 吸引チューブを連結管から外し保管容器に戻す、または単回使用の場合は原則として破棄する	ア						
	22 手袋をはずす(手袋を使用している場合)またはセッシを戻す	ア						
	23 利用者(実地研修協力者)に吸引終了の声かけを行い、姿勢を整える	ア						
	24 吸引物及び利用者(実地研修協力者)の状態を観察する	ア						
25 利用者(実地研修協力者)の吸引前の状態と吸引後の状態変化を観察する	ア							
26 吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないかを観察する(経鼻経管栄養実施者のみ)	ア							
27 手洗いをする	ア							
報告	28 吸引物及び利用者(実地研修協力者)の状態を報告する	イ						
	29 吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないことを報告する(経鼻経管栄養実施者のみ)	ア						
	30 ヒヤリハット・アクシデントの報告をする(該当する場合のみ)	ア						
片付け	31 吸引びんの排液量が70%~80%になる前に排液を捨てる	ア						
	32 使用物品を速やかに後片付けまたは交換する	ア						
記録	33 実施記録を記載する	ア						
アの合計個数		32						

※自由記載欄：指導内容を具体的に記述してください。(手引きの留意事項・考えられる主なリスク等に記載されている細目レベルで記述)

()回目	
()回目	
()回目	
()回目	
()回目	

受講者氏名		指導者氏名	
-------	--	-------	--

**経管栄養「実地研修」
胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養(滴下) 指導者評価票**

※業務内容については、手引きの留意事項・考えられる主なリスクを参照のこと

評価	ア. 1人で実施できる。評価項目について手順通りに実施できている。
	イ. 評価項目について、手順を抜かしたり、間違えたりした。実施後に指導した。
	ウ. 評価項目について、手順を抜かしたり、間違えたりした。その場では見過ごせないレベルであり、その場で指導した。
	エ. 1人での実施を任せられるレベルにはない。

回数	例	()回目	()回目	()回目	()回目	()回目
月日	10/5	/	/	/	/	/
時間	14:00	:	:	:	:	:

実施手順	評価項目	評価判定					
実施準備	1 医師の指示等の確認を行う	ア					
	2 手洗いをを行う	ア					
	3 必要な物品を準備する	ア					
	4 指示された栄養剤（流動食）の種類・量・時間を確認する	ア					
	5 経管栄養の注入準備を行う	ア					
	6 準備した栄養剤（流動食）を利用者（実地研修協力者）のもとに運ぶ	ア					
ケア実施	経管栄養の実施	7 利用者（実地研修協力者）に本人確認を行い、経管栄養の実施について説明する	ア				
		8 注入する栄養剤（流動食）が利用者（実地研修協力者）本人のものであるかを確認し、適切な体位をとり、環境を整備する	ア				
		9 経管栄養チューブに不具合がないか確認し、確実に接続する	ア				
		10 注入を開始し、注入直後の様子を観察する	ア				
		11 注入中の表情や状態を定期的に観察する	ア				
		12 注入中の利用者（実地研修協力者）の体位を観察する	ア				
		13 注入物の滴下の状態を観察する	ア				
		14 挿入部からの栄養剤（流動食）のもれを確認する。	ア				
		15 注入中に利用者（実地研修協力者）の状態を観察する	ア				
		16 注入終了後はクレンメを閉め、経管栄養チューブの連結をはずす	ア				
		17 経管栄養チューブに白湯を注入し、状態を観察する					
		18 半座位の状態を保つ	ア				
報告		19 注入後、利用者（実地研修協力者）の状態を食後しばらく観察し、看護職員に報告する	イ				
		20 体位交換が必要な利用者（実地研修協力者）に対しては、異常が無ければ体位変換を再開する	ア				
		21 ヒヤリハット・アクシデントの報告をする（該当する場合のみ）	ア				
片付け		22 環境を汚染させないように使用物品を速やかに後片付けする	ア				
記録		23 実施記録を記載する	ア				
アの合計個数		21					

※自由記載欄：指導内容を具体的に記述してください。（手引きの留意事項・考えられる主なリスク等に記載されている細目レベルで記述）

()回目	
()回目	
()回目	
()回目	
()回目	

受講者氏名		指導者氏名	
-------	--	-------	--

**経管栄養「実地研修」
経鼻経管栄養 指導者評価票**

※業務内容については、手引きの留意事項・考えられる主なリスクを参照のこと

評価	ア. 1人で実施できる。評価項目について手順通りに実施できている。
	イ. 評価項目について、手順を抜かしたり、間違えたりした。実施後に指導した。
	ウ. 評価項目について、手順を抜かしたり、間違えたりした。その場では見過ごせないレベルであり、その場で指導した。
	エ. 1人での実施を任せられるレベルにはない。

回数	例	()回目	()回目	()回目	()回目	()回目
月日	10/5	/	/	/	/	/
時間	14:00	:	:	:	:	:

実施手順	評価項目	評価判定	()回目	()回目	()回目	()回目	()回目	
実施準備	1 医師の指示等の確認を行う	ア						
	2 手洗いをを行う	ア						
	3 必要な物品を準備する	ア						
	4 指示された栄養剤（流動食）の種類・量・時間を確認する	ア						
	5 経管栄養の注入準備を行う	ア						
	6 準備した栄養剤（流動食）を利用者（実地研修協力者）のもとに運ぶ	ア						
ケア実施	7 利用者（実地研修協力者）に本人確認を行い、経管栄養の実施について説明する	ア						
	8 注入する栄養剤（流動食）が利用者（実地研修協力者）本人のものであるかを確認し、適切な体位をとり、環境を整備する	ア						
	9 経管栄養チューブに不具合がないか確認し、確実に接続する	ア						
	経管栄養の実施	10 注入を開始し、注入直後の様子を観察する	ア					
		11 注入中の表情や状態を定期的に観察する	ア					
		12 注入中の利用者（実地研修協力者）の体位を観察する	ア					
		13 注入物の滴下の状態を観察する	ア					
		14 注入中に利用者（実地研修協力者）の状態を観察する	ア					
		15 注入終了後はクレンメを閉め、経管栄養チューブの連結をはずす	ア					
		16 経管栄養チューブに白湯を注入し、状態を観察する						
	17 半座位の状態を保つ	ア						
報告	18 注入後、利用者（実地研修協力者）の状態を観察し、報告する	イ						
	19 体位交換が必要な利用者（実地研修協力者）に対しては、異常が無ければ体位交換を再開する	ア						
	20 ヒヤリハット・アクシデントの報告をする（該当する場合のみ）	ア						
片付け	21 環境を汚染させないように使用物品を速やかに後片付けする	ア						
記録	22 実施記録を記載する	ア						
		20						

※自由記載欄：指導内容を具体的に記述してください。（手引きの留意事項・考えられる主なリスク等に記載されている細目レベルで記述）

()回目	
()回目	
()回目	
()回目	
()回目	

受講者氏名		指導者氏名	
-------	--	-------	--

**経管栄養「実地研修」
胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養(半固形化栄養剤) 指導者評価票**

※業務内容については、手引きの留意事項・考えられる主なリスクを参照のこと

評価	ア. 1人で実施できる。評価項目について手順通りに実施できている。
	イ. 評価項目について、手順を抜かしたり、間違えたりした。実施後に指導した。
	ウ. 評価項目について、手順を抜かしたり、間違えたりした。その場では見過ごせないレベルであり、その場で指導した。
	エ. 1人での実施を任せられるレベルにはない。

回数	例	()回目	()回目	()回目	()回目	()回目
月日	10/5	/	/	/	/	/
時間	14:00	:	:	:	:	:

実施手順	評価項目	評価判定	()回目	()回目	()回目	()回目
実施準備	1 医師の指示等の確認を行う	ア				
	2 手洗いをを行う	ア				
	3 必要な物品を準備する	ア				
	4 指示された栄養剤(半固形化栄養剤)の種類・量・時間を確認する	ア				
	5 半固形化栄養剤の注入準備を行う	ア				
	6 準備した半固形化栄養剤を利用者(実地研修協力者)のもとに運ぶ	ア				
ケア実施	7 利用者(実地研修協力者)に本人確認を行い、半固形化栄養剤の経管栄養の実施について説明を行う	ア				
	8 注入する半固形化栄養剤が利用者(実地研修協力者)本人のものであるかを確認し、適切な体位をとり、環境を整備する	ア				
	9 経管栄養チューブに不具合がないか確認し、確実に接続する	ア				
	10 注入を開始し、注入直後の様子を観察する	ア				
	11 注入中の表情や状態の変化を観察する	ア				
	12 挿入部からの栄養剤(半固形化栄養剤)のものを確認する。	ア				
	13 注入中の利用者(実地研修協力者)の状態(気分不快、腹部膨満感、おう気・おう吐等)を観察する	ア				
	14 注入終了後は白湯を注入し、状態を観察する	ア				
	15 半坐位の状態を保つ	ア				
報告	18 注入後、利用者(実地研修協力者)の状態を観察し、報告する	イ				
	19 体位交換が必要な利用者(実地研修協力者)に対しては、異常が無ければ体位変換を再開する	ア				
	20 ヒヤリハット・アクシデントの報告をする(該当する場合のみ)	ア				
片付け	21 環境を汚染させないように使用物品を速やかに後片付けする	ア				
記録	22 実施記録を記載する	ア				
アの合計個数		21				

※自由記載欄：指導内容を具体的に記述してください。(手引きの留意事項・考えられる主なリスク等に記載されている細目レベルで記述)

()回目	
()回目	
()回目	
()回目	
()回目	